

**マツダ(株)と第一汽車集団、合併販売統括会社設立の  
中国政府承認を取得**  
—中国での販売体制を強化しマツダブランドの確立を目指す—

マツダ(株)と中国の第一汽車集団(FAW)は1月17日、北京で共同記者会見を行い、マツダ(株)と第一汽車集団およびその子会社である一汽乗用車(中国名:一汽轎車股份有限公司、FCC)の3社が合併で設立する販売統括会社について中国政府の承認を取得し、会社設立の準備に入ったと発表した。新会社は2005年3月初めから第一汽車集団の本社がある長春で営業を開始する。

新会社の会社名は「一汽マツダ汽車販売(中国名:一汽馬自達汽車销售有限公司、英語名: FAW Mazda Motor Sales Co., Ltd., FMSC)」とし、資本金は1億元(約14億円)で、出資比率は、一汽乗用車が70%、マツダが25%、第一汽車集団が5%とする。

新会社の董事長(会長)と副總經理(副社長)は第一汽車集団が指名し、副董事長(副会長)と總經理(社長)はマツダが指名する。

新会社は、現在中国で生産、販売しているMazda6と今後中国で生産し導入する全てのマツダブランド車を取り扱い、中国においてマツダブランド車の卸売を行う唯一の販売統括会社となる。

第一汽車集団の安徳武(An De Wu)副總經理は、「このたびの新会社の設立は強い会社どうしが手を組む歴史的な共同事業である。中国自動車工業のリーダーである第一汽車集団は豊富なディーラー網資源と中国国内市場での販売経験を有している。またマツダはグローバルにビジネスを展開する自動車メーカーとして先進的なマーケティング、販売のノウハウを持っている。両社の協力は現在の第一汽車集団の経営を国際レベルに高めてくれるとともに、中国国内の中小型乗用車市場における競争構造にも大きな影響を及ぼすであろう」と述べた。

マツダの中国事業担当 尾崎清 取締役専務執行役員は、「マツダは成長する中国市場での中期目標として2010年に30万台を生産、販売する体制を構築する計画である。このたびの合弁販売統括会社の設立は、生産拠点の拡大とともに、中期目標達成のための最重要施策のひとつとして位置付けている。マツダの中国での重要なパートナーのひとつである第一汽車集団と資本関係を結び、これまでの協力関係を更に深めることができ大変心強い。新会社では統一した販売、マーケティング施策のもとで販売網の拡充と効率的な販売会社の運営を目指す。これにより、グローバルに評価の高いマツダの商品を質の高いサービスとともに中国のお客さまにお届けしてトップレベルの満足を提供し、マツダブランドを強化したい」と述べた。

マツダは2001年5月から本格的に中国市場に進出後、生産、販売は飛躍的な伸びを示した。2002年の販売は前年比123%増となる22,979台、2003年は前年比248%増となる80,075台であった。2004年は中国国内乗用車市場の成長が緩やかになり、競争が激化する中、一汽乗用車(FCC)と一汽海馬(FHM、海南)の販売は前年比21%増となる97,132台に達した。第一汽車集団とマツダは良好な協力関係の下で、中国市場において日々激化していく競争に対処していくため、ディーラー網およびマツダブランドを強化することを目的に2年近くの準備を経て、合弁販売統括会社設立という夢を実現した。